

# 塩屋らしさを次代に引き継ぐための 「しおや景観基準」検討中

現存する川、海、山、草木を守り、さらに豊かな自然生態が育つ環境を回復する。

みち、橋、建物、工作物、すべてがヒューマンスケールで構成される複雑な景観を形成する。

## 基本目標案

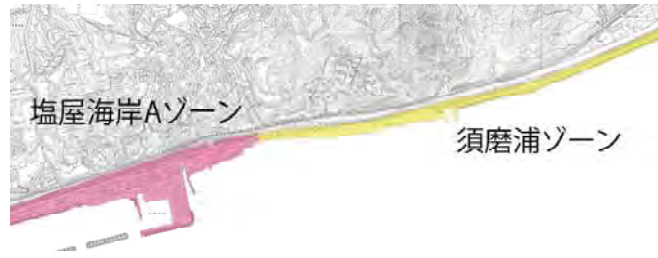
水、みどり、空が主役となる風景を維持する。

新たな建築・開発行為を「塩屋らしさ」の増進につなげる。

### ▼すでに決められているルール

別表2 規制又は措置の基準として必要な制限（法第8条第3項第2号関係）

	【須磨海岸ゾーン】	【須磨浦ゾーン】	【塩屋海岸Aゾーン】	【塩屋海岸Bゾーン】
①建築物の高さ	(風致地区以外) 15メートル以下	(風致地区以外) 10メートル以下	—	—
②建ぺい率	(風致地区以外) 10分の4以下	(風致地区以外) 10分の3以下	—	10分の3以下
③間口率	—	—	10分の7以下	—



神戸市都市景観計画/  
須磨・舞子海岸都市景観  
形成地域 (S63.9.10 指定)

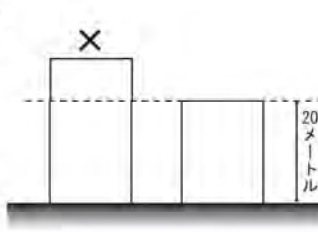
### ▼現在、地域で検討中のルール

#### 国道沿道の建物高さの制限 ～塩屋まちづくり構想（2008）より～

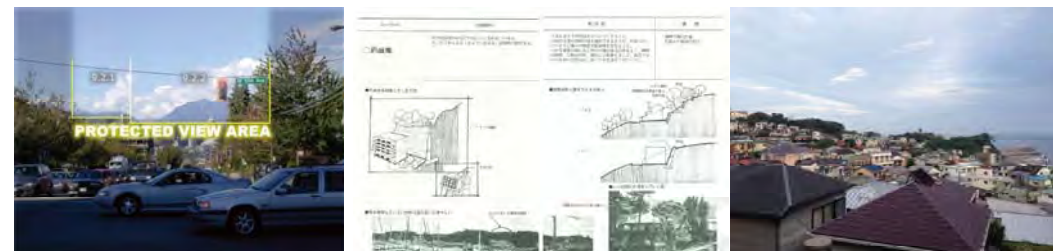
##### 眺望を保全するため建物の高さを制限する

塩屋地区の多くでは、すでに法律・条令で、建てられる建物の高さが決められていますが、国道2号沿いなど一部ではその規制がありません。そこで以下のようなルールを新たに設けます。

山や海への眺めを守り、日当たりなどの障害を抑えるために、国道2号沿い（前頁の図参照）についても高さ規制を設ける。高さの最高限度は地上20メートル（概ね6～7階建）とする。



#### 他地区のルールを応用した景観保全の考え方を模索中



バンクーバー

真鶴町

# 古き良き塩屋を知る、まちの“知識人”たちとのトークセッション！ 「“徹公”の部屋」開催報告（第8回～第12回）

## ●徹公の部屋 第8回

### 『夜露のブルース』映画鑑賞

1947年に日活作品により撮影された『夜露のブルース』を鑑賞しました。石原裕次郎さん、浅丘ルリ子さん主演の作品で、塩屋がちょこっと出ています。

## ●徹公の部屋 第10回

### 『涙をありがとう』映画鑑賞

1965年に日活作品により撮影された『涙をありがとう』を鑑賞しました。神戸の各所で撮影が行われ、ジェームス山や井植記念館周辺など、塩屋の風景も登場しています。当時撮影を見学した人によると、実際に使用されているシーンは短いですが撮影期間は非常に長かったそうです。



## ●徹公の部屋 第11回

### 写真集『昭和の神戸』を眺めながら、 昭和の塩屋について語る

写真家の飯塚富郎さんと弟さんに来ていただき、大判の写真を見ながら当時の塩屋について語っていただきました。カザールハウスという大きな敷地内で、果樹園や養鶏場の世話などをしながら暮らされ、写真は日本写真会に所属して23歳の時から始められたそうです。

当時の街の様子をたくさん写真に残されていて貴重な資料となっています。



## ●徹公の部屋 第9回

### 「昭和20年代の塩屋の風景（見たこと・聞いたこと）」

お父様が有栖川宮別邸の昭和天皇来訪時の寝室を造営した西口工務店の西口文雄さんに来ていただき、戦前から戦後にかけての塩屋境界の当時の街の風場を語っていただきました。塩屋の素朴な街の雰囲気や景観・情感などをよく覚えられており、箇条書きにされたメモから熱く話され、時には歌や身振りも入れた濃厚な1時間半でした。



## ●徹公の部屋 第12回

### かしまし塩屋あれやこれや

塩屋暦80年以上！3人娘、西村寿恵美（80）・北川静代（83）・北川隆子（87）さんに来ていただき、戦前戦後に渡る塩屋の思い出話を、広い分野にわたって紹介してもらいました。映画の撮影話、ジェームスさんをはじめとした外人さんのお付き合い、当時の街の風景などなど。話が尽きず少し延長しましたが、次回以降に再度話をしたいということで幕を閉じました。

